

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271102347		
法人名	有限会社 シャローム		
事業所名	グループホーム希望の家		
所在地	長崎県西海市西彼町小迎郷1074-3		
自己評価作成日	平成26年8月29日	評価結果確定日	平成26年11月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=4271102347-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成26年9月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①「夕暮れ時にも輝く人生」を理念とし「入居者が主役スタッフは脇役」の標語のもと、尊厳をもって介護をしている。
 ②海と山とミカン畑に囲まれた1000坪の広々とした土地にありながら、国道やスーパーにも歩いて行けるので利便性がある。
 ③キリスト教理念で経営しており、納骨堂を完備している。牧師がいるので、希望すればチャペルでの葬儀も可能である。
 ④看護師・介護員が連携しターミナルケアに取り組んでいる。
 ⑤血液サラサラ食である野菜・海藻・豆類・イモ類を中心に、朝昼晩ともに1汁3菜に果物を付けた献立を工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

看取りの経験が豊富な施設であり、入居者みんなで見送ることができる環境作りがなされている。住み慣れた場所での看取りができるように支援されている。また、同施設内でお葬式も行え、納骨堂も設置されている。安心して最期を迎えることができる体制が整っている。
 身体的な拘束はもちろんのこと、言葉による拘束防止の積極的に取り組まれており、「スタッフ同士、勇気を持って注意しあっていますか」と高い意識付けをされている施設である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「夕暮れ時にも輝く人生」に付随した読み物を読んで、理念を共有し実践に努めている。	毎日の朝礼や何かあるごとに職員にフィードバックしている。各ユニットにも掲示し常に意識し、介護と理念を結び付けて考えるようにしている。新入社員教育にも2日間時間を取って教育を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のスーパーに買い物に行ったり、犬の散歩に行って近所の方と交流をしている。	買い物や犬の散歩に出かけるときに、近所の方と挨拶や会話を交わしたりと日常的な交流が継続されている。店の前にプランターを設置し、水やりなどのお世話をすることで近所の方との接点を持てるようにしている。また、夏祭りなどチラシを配り地域の方に参加してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の支援の方法を民生委員のつどいや、運営推進会議の方々にお話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通し、情報の共有やアドバイスをいただいたり、避難訓練の参加もしていただいている。	意見について記録に全て残すようにしており、職員にも周知している。意見に対しすぐに対応できない場合には結果を次回の会議にて報告若しくは、お便りなどで周知するようにしている。家族にも1年交代で声かけし参加してもらい、意見を言いやすいようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の参加者に市職員も加わっており、状況報告は定期的に行っている。	長寿介護課課長に運営推進会議に出席してもらい、顔見知りの関係をつくっており、協力関係を築いている。わからないことがあるとすぐに問い合わせをしている。月に1度待機者の報告も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていないが、言葉の拘束を意識し、毎朝各ユニットにおいて拘束しないケアについての言葉の唱和を行っている。	各ユニットから二人ずつ出て身体拘束委員会を設置しており、委員会が決めた言葉を毎朝唱和している。自己評価も毎日実施し、本人の気付きも大切にしている。また「スタッフ同士、勇気を持って注意しあえていますか」の言葉通り、気付いた時にお互いに声を掛け合うことで拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会があり虐待が見過ごされないよう注意を払っている。身体に傷がある場合は、いつどのようにして出来たかの原因究明をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は研修の機会がなかったので、あれば参加したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・入居者・家族と一緒に読み合わせ、十分に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、来所時に要望を聞いたりしている。	以前家族から「情報が伝わってこない」と言われたため、ミーティングで家族との関わり方について検討した。その結果信頼関係ができ、気持ちよく話ができるようになった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は月一度のスタッフミーティングで職員の意見を聞いている。代表者は年に1・2回個人面談を行っている。	年に1・2回職員と管理者や施設長との面談の機会を設置。随時職員にも声かけし、言いやすい環境を作っている。スタッフミーティングや朝礼においても意見を言う機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与や賞与については税理士と相談し、アドバイスを受けている。労働時間についてはオーバーワークがないように欠員の補充に努めている。やりがいについては各自委員会のメンバーとなり、責任を果たしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員がおり、法人内外の研修を受ける機会を多くもっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の同業者との交流会があり、いも掘りに行ったりレクリエーションに参加して頂いたりしている。		

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から訪問・状況収集し、早めにバックグラウンドを把握することに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から家族と話し合いをし、不安要望を把握するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族管理者ケアマネージャーが話し合い、その時必要としている支援を見極め、ケアプランを実施するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができる事はなるべくしていただくように工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	変化があればすぐに家族に連絡し、家族と一緒に考えながら本人と家族の関係を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なるべく自宅に帰れるようなプログラムを作っている。帰宅時は近所の人ともお茶会ができるようにしている。	ふるさと訪問と称し、同じ地区の方を自宅に連れて行き家族と過ごす時間を設定している。その際には近所の方や昔の仲間に声をかけて集まってもらったり、時には息子さんの職場の見学等利用者にとって一番気になっていることなどを盛り込む工夫をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりやレベル的なことを考え孤立しないようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は相談があれば支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向に沿えるように努力している。例えば病院見舞い、神社、買い物など。	普段の日常会話の中で、なるべく元気なうちに本人の希望を聞き取るよう努め、困難な場合には本人の様子や表情からやりたい事を感じ取るように努めている。家族には面会時や電話で思いや意向を聞き取っている。聞き取った内容は管理者へ報告し、ミーティングで職員全体で話し合い、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ひとりひとりの生活歴の把握に努めている。方法としては、家族親類の面会時や介護サマリーなどを通して。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌・業務日誌やケアプランで毎日目を通して。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	問題や変更があれば担当者と共にモニタリングを行い、ケアプランの検討をしている。	ひとりひとりの利用者の状態について、月一回のミーティング時に職員からの意見を出し、介護計画の見直しを行っている。参加できなかった職員はスタッフミーティング記録で確認し把握している。出来上がった介護計画はケアプランチェック表に落とし、全職員が常に把握できるように工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランチェック表や排泄記録表に気づきを記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況・ニーズの変化に対して、柔軟に支援できるように取り組んでいる。デイケアやシルバーホーム、デイサービスなど。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーへの買い物、介護タクシーの利用、地域公園での花見、社協、温泉など。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診により利用者は適切な医療を受け快適な生活を送っている。	入居時に協力医の説明を行い、利用者に選択してもらい決定してる。希望により、それまでのかかりつけ医への受診にも対応している。協力医による定期検診を施設内で行い、その他の受診は基本、家族同行で行っている。家族の同行が難しい場合は通院介助も行うが、介護タクシーを利用し、病院で家族と待ち合わせて受診を行うこともある。受診後や変化があった場合は家族へ電話連絡を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常があるときはすぐに看護師に相談し、アドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医と連絡を取って、適した病院を紹介してもらっている。報告連絡相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で家族と話し合い、重度化の方針を共有している。	入居時に、重度化した場合における対応に係る指針について説明を行っている。看取りの事例は10件以上あり、職員にとっても実践で学習し経験を積んでいる。重度化した場合、利用者の状態の変化において、医師から家族に説明を行った上で看取りについての同意を得ている。看取りは畳のスペースで、利用者全員で最期の時を見守ることが出来ている。また、施設内には納骨堂やお葬式を行うことも出来、利用者や家族にとって安心できる環境が整っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回救急法の講習会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に避難訓練を行い、万一の場合に備えている。防災チェックも行っている。	年間3回の火災の避難訓練を行い、消防署立会いのもと夜間を想定した避難訓練も行っている。避難訓練は地域との協力体制が持てるよう、運営推進会議に出席した方々にも参加してもらっている。食料、水をはじめ、簡易トイレやマスク、カセットコンロや電池、毛布などの備品も備えている。	火災による避難訓練の計画と訓練は行われているが、その他の災害についての計画と訓練が行われていない。今後、その他の災害についても検討し実践することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しその人を傷つけない言葉かけに努めている。薬を塗る時はプライバシーを守り、公の場で塗らないようにしている。	職員は入社時に守秘義務の徹底を図るための研修と誓約書を交わしている。日頃、利用者に対し、声かけや言葉遣いについて、馴れ馴れしくならないよう、常に職員間で注意し合うよう努めている。利用者には契約時においても個人情報の使用目的や、写真使用についても説明を行い同意を得るようにしている。入浴や排泄時には他の人にわからないよう声かけを行い、プライバシーの配慮に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レベルにより難しい人もいるが、自己決定出来る人は働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースを大切にしたいが現実には難しく、スタッフ側のペースで動いていた多い。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性のひげそりや爪切りなどこまめに行っている。女性は美容師さんにカットに来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る人にはジャガイモの皮むきやゴボウそぎ、お盆拭きなどをしていただいている。	食事の調理は職員が当番で行っている。その日にある食材を使い、6品の家庭料理を提供している。入居時に利用者の嗜好を聞き取り配慮した上で、野菜中心に良質のたんぱく質を取り入れたこだわりの食材で料理している。利用者も野菜の皮むきや食器洗いなど出来ることを手伝っている。職員と一緒に食卓を囲み、テレビはつけず、音楽や会話を楽しみながらの楽しい時間となるよう工夫がなされている。お正月のお節も職員の手作りで季節感を感じることが出来ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人にあった食事量を提供しており、水分量も記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に声かけを行い、毎食後必ず口腔ケアをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間は全員布パンツ、または布パンツにパットを使用し、排泄時には同行している。	排泄記録表に水分の摂取時間も同時に記録し、利用者の排泄リズムを把握してトイレ誘導を行い、自立にむけた支援を行っている。夜間はポータブルでの排泄やおむつパットの利用者もいるが、2時間おきに確認して交換や排泄の支援を行っている。トイレは、男女兼用になっているが入口にカーテンをすることでプライバシーを確保する工夫がされている。トイレ誘導の声かけは他の人に気付かれないよう配慮し、失禁時はトイレで着替えを行い必要な場合にはシャワー浴を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い野菜中心、消化のよい食品や献立を心掛けている。水分を摂取に気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	スタッフの数や時間が限られているので、職員の都合で入浴をしていただいているが、希望やタイミングによっては、シャワー浴や入浴をしている。	入浴日は週に2、3回決まった日の中で行っているが、体調に合わせて声かけし、なるべく嫌がらずに入浴してもらえよう、場合によっては足浴やシャワー浴、清拭など変更しながら支援を行っている。季節によって菖蒲湯やみかんを入れたり職員とゆっくり時間をかけて会話を楽しみながらの支援を行っている。一対一の個浴を基本とし、プライバシーにも配慮しながら行っているが、同性介助や安全確保のための2名体制で行うこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室のエアコンを調整し、安眠できるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期受診に基づき最小限の服薬を心掛け、処方箋よくみるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所のお手伝い、洗濯物たたみ、ペーパー折りや読書などをして過ごされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候により日光浴やドライブ買い物に行かれている。	利用者の高齢化に伴い、以前のような外出の頻度は少なくなっているが、天気の良い日にはテーブルと椅子を出してお茶会をしたり、ドライブに出かけたりしている。希望があれば介護タクシーで買い物へ出かけたり、近くのお店に出かけることで地域の方々との会話も楽しむことができている。家族の協力でお墓参りをしたり自宅で親戚との集いを行うこともある。毎年、敬老の日には、施設の行事としてホテルでの家族参加の敬老会を開いており、おしゃれをして出かけ、食事をする楽しい行事となっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る人は介護タクシーを利用してショッピングに行っているが、管理の出来ない人は職員同行で買物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時には電話をかけられている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは季節の花で飾ったり、音楽をかけたたりしている。不快臭が出ないように毎日ゴミ出しをしている。	共有のリビングには畳のスペースがあり、昼寝をしたり、本を読んだり、くつろげる場となっている。楽しく会話が出来るようなソファの配置になっており、テレビはつけたままにならないように心がけている。毎朝、換気を行い、植物や季節の花を飾り自然に囲まれた環境で鳥や虫の声を聞くことが出来、心地よい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、ベット、畳など思い思いのところで過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇、衣装ケースなど本人の使用していたものを持ち込んでいる。	利用者が落ち着いて過ごせるよう、家族の写真や使い慣れた家具、仏壇などの持ち込みに対応している。利用者の希望やベッドからの転倒の恐れがある場合は、畳を敷き、布団に変えることにも対応できている。自分の部屋がわかるようにドアに名前や飾りを付ける工夫もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険なものは置かないようにしている。事務所、台所からリビング内全体が見渡せるようにしている。		